

平成 20 年度 情報通信技術系技術講習会報告

若松 進

工学研究科・工学部技術部 情報通信技術系

今年度の情報通信技術系技術講習会のテーマは、当技術系として近い将来にその必要性が予想される「次世代の IT 基盤を支えるテクノロジー」としての仮想化技術の現状についての紹介を行うことになった。本講習会には、本技術系からは当日業務の関係で参加できなかった技術職員を除いた 9 名に、他技術系からの 2 名を加えた 11 名が参加し、意義のある技術講習会を開催することができた。

講習会の概要は、以下のとおりである。

日 時：平成 20 年 9 月 18 日(木) 10 時 30 分～12 時 00 分

場 所：工学部 7 号館 B 棟 313 号室

講 師：情報管理技術班 技術班長 大下 弘

内 容：仮想マシン構築の第一歩

はじめに、PPT を利用して仮想化技術の概念と現状の紹介と Windows パソコン上で動作する仮想化ソフトウェア「Vmware Player」のインストールの方法について説明があった。

次に、予め「VMware Player」をインストールした Windows パソコン(Os は Vista)を利用して、実際に仮想マシンを動作させた例が紹介された。

最初に、Ubuntu Japan Team が提供している 2008 年 4 月現在における最新版である Ubuntu7.10 のインストール方法や、この OS を利用した Vmware 用の仮想化マシンの起動方法、また仮想化マシン上でどのようなことが実現できるかについて、実際に仮想マシンを動作させて紹介があった。なお、この例は OS イメージが雑誌の付録として提供されているものであった。

次に空の OS イメージから任意の OS をインストールした例が示された。CentOS5.2 および Solaris10x86 の仮想マシンを実際に動かして、複数の仮想環境が併存して動いている様子が紹介された。

デモ中に若干のトラブルが発生したものの、当講習会への参加者にとって仮想化マシンの基礎的な概念を知ることが出来、有意義な技術講習会であった。

参考資料：日経 Linux 2008 年 4 月号